

# 第11回 和歌山・人権啓発研究集会

1月31日、第11回和歌山人権啓発研究集会がプラザホープでひらかれ、県内外から、180人が参加した。野口道彦理事長、飯田敬文県連副委員長から「差別は絶対に許さないという姿勢で、県民全体で解決していくために、みなさんのご協力をお願いします」とあいさつした。

隣保館の相談活動から見えてくる部落の課題」と題して中尾由喜雄・全国隣保館連絡協議会会長から講演があった。同和問題解決に向け、教育・就労・産業・啓発などの課題について隣保館の機能が重要となっている。日常生活の些細な不安やストレスを聞くということが地域に根ざした行政サービスのひとつ。制度が必要としている人に必要



野口道彦理事長  
あいさつする野口道彦理事長  
就労・産業・啓発などの課題について隣保館の機能が重要となっている。日常生活の些細な不安やストレスを聞くということが地域に根ざした行政サービスのひとつ。制度が必要としている人に必要



家族としての思い出を語る大島信雄さん



隣保館の役割を語る中尾由喜雄さん

な制度をコーディネートしながら結び、解決していかなければならないと話された。

た。午後からは啓発ビデオ紹介「いま、部落を語る若者たち」が上映された。つづいて、大島信夫・和歌山県精神保健福祉家族会連合会障害者施設推進委員長より、精神障がいをもつ家族として当事者と家族の社会参加が難しいのは、社会環境整備が不十分であったことである。増え続けている精神病が他の病気と同様に多くの人に正しく理解されよう活動を進めていくと語られた。

執行後の隣保館のあり方をテーマに、県下5館の隣保館の館長より日常生活の活動状況や課題が報告された。子どもの教育や高齢者福祉に関する課題、また、生活や就職相談といった多くの相談がある。今後の隣保館のあり方として、地域とのつながりと地域外のつながりを深め、福祉の向上と部落問題をはじめとした人権啓発の施設として重要な役割であることが報告された。

## 青年の掘り起こしを

### 青年対策部会議

県連青年対策部会議を1

月26日、県連事務所ですらき、松井資喜青年部長、速水雅樹執行委員、対策部員5人が参加した。

討議の結果、第32回和歌山県連青年部大会を5月15日におこなうことを決め、昨年ひらかれた全青・全高の報告集をも兼ねる。

また一昨年、青年部オルグの成果を基にした県連青年部活動についても議論され、もう一度、各支部に対して青年部の結成と青年の掘り起こしを呼びかけると同時に、日常の交友関係のなかで青年の掘り起こし活動をおこなっていくことを対策部員で確認した。

## 物産紹介 「紀州しゅめまつり」

1月から2月にかけて、高速道路を南に向かって走ると、真っ白な梅の花がみごとに咲いている。梅生産日本一である和歌山県を代表する品種の南高梅は、果実が大きく、また種が小さい、そして果肉が柔らかい。南高梅を使用した梅干しは最高級品とされ、贈答品としても喜ばれる。

田辺市天神崎にある「紀州うめまさ」は、同和対策事業の大型共同作業所として1999年に建設された。田辺支部との連携いで、正社員・パートを含め地域



から12人が働いている。さらにエコを考える企業として、環境庁が推せんしている「エコアクションポイン」に力を入れ、生分解性プラスチック容器を使用し、箱には再生紙を使う。古来より「梅は医者いらず」という言葉どおり、健康食品としての評価も高く、梅干に含まれるクエン酸は疲労回復、食欲不振に効果があり、乗り物酔いや二日酔いにもいいと言われている。また、血糖値を下げ胃がんの原因とされるピロリ菌の抑制にも効果があることがわかってきている。梅干には食塩の含有率が多く、最近減塩梅干が主流だ。

ひと粒ずつ丁寧に作られている「うめまさ」の梅干を一度、ご賞味あれ！

▼連絡先 TEL 0739 (23) 1371もしくは、インターネット

「いち梅本舗」  
(※「いち梅本舗」より購入すると特典があります)

## 主張

### すべての子ども達に教育を

高等学校入学試験をむかえて各支部、子ども会で最後の勉強会にとりくんでい

る。「なんとか高校へ」と、とりくみが進められて久しいが、毎年低学力にある部落の子ども達に対する学習会がくりひろげられている。部落解放運動は、義務教育における教科書の有償化に疑問を呈し、教科書無償化の運動を展開した。高知の女性たちが立ち上がり、当時の部落の子ども達のおかれている現状を直視し、また、親たちの生活実態のなかから、教科書無償化を勝ち取った。その闘いが全国に広がり、部落の子ども達だけでなく、すべての子

ども達の教科書無償を勝ちとった経験をもっている。教育の機会均等の権利の完全な保障を求めて、今日までとりくみを進めてきた。それは、部落差別の本質的課題(就職の機会均等の権利の完全な保障)にと

って非常に重要な権利であり、これらの権利を保障させるため、教育環境の整備や地域での親の教育力の向上、子どもの学力保障、そして奨学金制度のとりくみをおこなってきた。

文部科学省は「文部科学白書」を09年に発表した。

「日本は国際的にみて家計の教育費負担が大きく、公的支出が少なく」と強調したうえで、「教育に十分な資源を振り向けることが喫緊の課題」とうたっている。また、白書では09年度の全国学力テストの結果などを分析し、①就学援助を受ける生徒の割合が高い学校は正答率が低い傾向があること、②親の年収が400万円以下の子どもの大学進学率は31%なのに対し、同一000万円超だと62%に達することなどを指摘し、子どもの進学率の伸長が親の

**映画紹介【クラッシュ】**  
アカデミー賞受賞作品。舞台はロサンゼルス。ハイウェイのクラッシュ事故から物語りがはじまる。アメリカの銃社会と人種差別社会、人間の差別意識を上手く描いた映画である。差別する側とされる側の両者、それぞれの潜在的意識が巧妙に表現されている。差別主義者の警官とそんな彼のことを批判している同僚。テレビ業界で成功した黒人ディレクター。頻りに店が荒らされるペルシャ人雑貨店主。カージャックを繰り返す黒人青年など、多くの登場人物のストーリーが平行線で巧みに描かれた作品。 2005年/112分  
お問い合わせ  
県連教宣部 073(473)2301まで